



## ルール

---

- [ユーザーとユーザーロールとは \(1 ページ\)](#)
- [ユースケースのビジネスルール、ポリシー、またはワークフロー \(2 ページ\)](#)

## ユーザーとユーザーロールとは

Cisco Spaces : IoT Explorer ユーザーにはロールベース アクセス コントロール (RBAC) が提供され、ユーザーまたはユーザーグループにはさまざまなユーザーロールが提供されます。

ユーザーロールは、ユーザーに割り当てることができる制御と制限の集合です。

一部のユーザーロールおよび対応するユーザーは Cisco Spaces から継承され、デフォルトですべての IoT Explorer ユースケースに自動的に追加されます。

Cisco Spaces : IoT Explorer ユーザーロールは、さまざまな方法で定義できます。

ユーザーロールは、次の権限によって定義できます。

- **[Full Access]** : センサー、ルール、ユーザー、ユーザーロール、センサーテーブル、イベント、作業項目、通知の構成と表示を含む、ユースケースのすべての側面への管理アクセスをユーザーに許可します。

**[Read Only]** : センサーテーブル、ルール、ユーザー、イベント、作業項目、通知などのユースケースの側面への読み取り専用アクセスをユーザーに許可します。

**[Notifications Only]** : Cisco Spaces : IoT Explorer ルールエンジンによってユースケースイベントが生成されると、このユーザーは通知を受け取ります。

ロケーションを有効にするユーザーロールを設定することもできます。たとえば、フロアスタッフに、作業しているフロア上のアセットを表示および検索するためのアクセス権を付与できます。

# ユースケースのビジネスルール、ポリシー、またはワークフロー

Cisco Spaces : IoT Explorer では、ワークフロー、ポリシー、ビジネスルールを定義できます。測定を監視する条件を設定し、いずれかの測定がこれらのルールによって確立された標準から逸脱すると、IoT Explorer ソリューションが開始します。即時アラートを受け取ることができます。また、必要に応じて、ワークフローやビジネスルールによって事前定義された自動アクションをトリガーすることもできます。

条件をチェックするさまざまなタイプのルールを設定し、条件が満たされると、SMS、電子メールの送信、イベントのログ記録などのアクションがトリガーされます。

## ユースケースのルールを作成

このタスクでは、ユースケースにルールを追加する方法を示します。ルールでは、イベントをトリガーする条件を設定し、アセットやデバイスのステータスに関する重要なアラートを送信することができます。

### 手順

**ステップ 1** IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。

**ステップ 2** 新しく作成したユースケースのルールを設定します。次のいずれかを実行します。

- [Configure] に移動し、[Rules] 領域で [Add Rule] をクリックします。
- [Rules] タブに移動し、[Add Rule] をクリックします。

表示される [Add New Rule] ウィンドウは、このユースケースのデフォルトの [Rule] と [Event] で設定されています。各ユースケースには、1つのルールのみを含めることができます。ただし、他の条件を指定して、このルールをさらにカスタマイズすることは可能です。

**ステップ 3** (任意) デフォルトのルールを変更するには、[Rules] タブから、新しいルールをデフォルトのルールの上にドラッグアンドドロップします。

新しいルールがデフォルトのルールになりました。

**ステップ 4** (任意) ルールのスケジュールを設定するには、[Conditions] タブをクリックし、[Schedule] 領域から次のいずれかを設定します。

- [Duration] : このルールを適用できる開始日と終了日を指定します。
- [Day of the Week] : ルールを適用する曜日を指定します。
- [Time of the Day] : ルールを適用できる時刻を設定します。

**ステップ 5** (任意) [Conditions] タブの [Location] 領域で、ルールに適用するロケーションをロケーション階層から選択できます。

**ステップ 6** (任意) [Conditions] タブの [Location Metadata] 領域で、ルールに適用するロケーション名を設定できます。

**ステップ 7** (任意) [Conditions] タブの [Asset Metadata] 領域で、ルールに適用する特定のASET名を設定できます。

**ステップ 8** (任意) [Action] タブから、イベントを設定できます。ルール条件が満たされたときに、イベントがトリガーされます。デフォルトのアクションは、[Log the Event] です。ログに記録されたイベントは、ユーザースペースの [Events] に表示できます。ただし、次の操作を実行することもできます。

- [Send Email] : このユースケースにアクセスできるユーザーまたはユーザーロールに電子メールを送信するように設定します。メッセージを指定し、通知する必要があるユーザーとユーザーロールを選択できます。
- [Send SMS] : このユースケースにアクセスできるユーザーまたはユーザーロールに SMS を送信するように設定します。メッセージを指定し、通知する必要があるユーザーとユーザーロールを選択できます。
- [Cisco Webex] : このイベントが発生するたびに、指定したユーザーまたは Teams のスペースに Webex Teams でメッセージを送信するように設定します。Webex アカウントを設定し、通知メッセージを指定して、メッセージを伝達する Webex リンクを選択できます。
- [Log the Event] : イベントに名前と説明を付けて、デフォルトのログイベントを変更します。イベントの発生頻度が高すぎる場合は、一定期間に発生したデータポイントを集約し、単一のイベントとしてログに記録するように設定できます。

(注)

- [Only when the user is present] : アクションに対してロケーション認識を有効にすることで、ルールのカスタマイズを選択できます。ルールエンジンは、ユーザーがビジネスロケーションにいる場合のみ、電子メールと SMS を送信します。ユーザーとユーザーロールを設定するときに、ビジネスロケーションを設定できます。

**ステップ 9** [Save and Publish] をクリックします。

**ステップ 10** 表示される [Rule Summary] ウィンドウで、このルールに行われた設定を確認できます。その後で、次のいずれかを実行できます。

- [Save Only] : このルールをドラフトとしてのみ保存します。ルール条件が満たされていても、設定されたアクションはトリガーされません。
- [Save and Publish] : ルールをアクションに導入します。ルール条件が満たされると、設定されたアクションがトリガーされます。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。